

令和7年度
駿河湾・海洋DX先端拠点化計画評価委員会
評価記録

令和8年3月

1 評価概要

(1) 評価委員名簿

氏名（敬称略）	職
角南 篤	公益財団法人 笹川平和財団 理事長
前田 裕子	独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 監事
岸田 裕之	静岡商工会議所 会頭

(2) 評価方法

- ・計画の進捗状況及び今後の取組方針等に係る資料及び事務局からの説明を基に、各委員が評価項目に基づき評価した。（本評価記録では、各委員の評価点数を特定しない形で記載）

【評価項目】

大項目	小項目
①プロジェクトの推進に関する事	1)円滑な事業推進のための体制が構築できているか。
	2)各事業への予算配分は妥当か。
	3)KPI 達成を意識した取組となっているか。
	4)広報・情報発信の取組は十分か。
②研究開発に関する事	1)計画の目的に沿った研究テーマとなっているか。
	2)研究開発のマネジメントの仕組みは妥当か。
③大学改革・人材育成に関する事	1)大学間連携を通じて大学改革に寄与する取組となっているか。
	2)教育カリキュラムの検討体制、内容は妥当か。
④事業化・産業創生に関する事	1)研究開発成果を事業化に繋げる工夫はあるか。
	2)地域産業への貢献が意識されているか。
⑤今後の発展・地域への展開に関する事	1)若者・女性に対する訴求の工夫はあるか。
	2)将来的な取組の自走が期待できるか。

【評価基準】

4 優れている	3 適切である	2 十分でない	1 実施できていない
---------	---------	---------	------------

(3) 評価の日程

令和8年1月21日(水)10:30~12:00 外部評価委員会開催

2 評価結果

①プロジェクトの推進に関すること

小項目	自己 評価	評価委員評価		
		委員 A	委員 B	委員 C
1)円滑な事業推進のための体制が構築できているか。	4	4	4	4
2)各事業への予算配分は妥当か。	3	3	2	3
3)KPI 達成を意識した取組となっているか。	3	3	3	3
4)広報・情報発信の取組は十分か。	4	4	4	3

【主な委員意見】

- ・ プロジェクトの推進体制に関しては、静岡市長のリーダーシップのもと3大学を巻き込み理想的に作られている。現在の体制を崩すことなく進めてほしい。
- ・ 予算については、個々の事業へ予算を配分できている一方、全体としては大雑把な予算編成となっている。現状の課題を踏まえ、今後はより精緻な予算編成に努めてほしい。
- ・ KPI はまだ実績が出る段階になく現時点で定性的な評価が難しいが、下地が整えられつつあり、今後に期待する。次年度以降の予算確保のためにも、KPI の成果が早く見えるように取り組んでほしい。
- ・ 広報・情報発信は積極的に実施できているが、自己満足で終わらないよう、フィードバックを得て課題を整理し、常に新しい取り組みに繋げてほしい。
- ・ 市内だけでなく、全国に伝わるような情報発信を進めてほしい。

②研究開発に関すること

小項目	自己 評価	評価委員評価		
		委員 A	委員 B	委員 C
1)事業目的に沿った研究テーマとなっているか。	4	4	4	4
2)研究開発のマネジメントの仕組みは妥当か。	4	4	4	4

【主な委員意見】

- ・ 3大学との連携を含め、挑戦的なテーマを選定していると評価している。将来の事業化を念頭に企業との連携も進めている。
- ・ プロジェクト外の取組も含め、研究開発のロードマップが確実に策定されており、今後

このロードマップに沿って研究開発を進めてほしい。

- ・ アカデミアだけでは、いかにベーシックな研究をするかに終始してしまいがちである。知的財産戦略を意識して、産業界と繋ぐことを前提に取り組んでほしい。

③大学改革・人材育成に関すること

小項目	自己評価	評価委員評価		
		委員 A	委員 B	委員 C
1)大学間連携を通じて大学改革に寄与する取組となっているか。	4	3	4	4
2) 教育カリキュラムの検討体制、内容は妥当か。	4	4	3	4

【主な委員意見】

- ・ 海洋 DX という新しいテーマのもと、地域の3大学が連携して大学改革に繋げる好事例と評価している。
- ・ 一研究者の集まりではなく、大学組織として連携を図ることを念頭に、各学長がリーダーシップを取り、連携推進法人の設置にうまく繋げてほしい。
- ・ 駿河湾という海洋の実証フィールドを武器に、全国でここにしかない教育プログラムを創り上げてほしい。そうすれば、全国から海洋を学びたい、関わりたい人が静岡に集まってくる。
- ・ 海洋 DX コースは、全員が産業界の現場で働きながら、あるいは駿河湾のテストフィールドに毎日通いながら大学を卒業できる、そういった実践をベースとしたプログラムを作れば非常に魅力が出ると思う。

④事業化・産業創生に関すること

小項目	自己評価	評価委員評価		
		委員 A	委員 B	委員 C
1)研究開発成果を事業化に繋げる工夫はあるか。	4	4	4	4
2)地域産業への貢献が意識されているか。	4	4	4	4

【主な委員意見】

- ・ 研究から入ってしまうとそこで終わってしまう。また研究で良いものが開発できても必ず事業化できるわけではないので、早い段階から様々な形で産業界とコンタクトを取り

事業化を目指して進めていくことが重要。

- ・ 産業界に繋ぐ時には知財戦略が非常に重要になる。開発した技術を企業に使ってもらい易い方法をよく検討し展開してほしい。
- ・ 高校から大学に進み、大学を出た後に県外に行ってしまうのではなく、地域の魅力を持った企業に留まってもらうことが非常に重要。事業を創り、そこへ人材を輩出するところまで一体的に取り組むことが必要と考える。産業界と連携を取りながら進めてほしい。

⑤今後の発展・地域への展開に関すること

小項目	自己 評価	評価委員評価		
		委員 A	委員 B	委員 C
1)若者・女性に対する訴求の工夫はあるか。	3	3	3	3
2)将来的な取組の自走が期待できるか。	4	3	4	4

【主な委員意見】

- ・ 若者や女性への訴求については継続が重要。引き続き力を入れてほしい。
- ・ 全国には、船舶など海洋専門の教育を行う高専がある。一般の高校生は海に対して関心が薄い可能性もあるので、海洋関係に取り組んでいる高専にもっと働きかけることが重要ではないか。
- ・ この交付金では、海洋関連の採択事例は静岡が唯一。政府の成長戦略に海洋が位置付けられたこともあり、この静岡の取組が一つの全国的なモデルになり得る。県外の学生に対して、静岡に来て活躍する場としてうまくアピールしていく必要がある。
- ・ 自走化についてはハードルも高いが、トップの強いリーダーシップのもと、産業界に上手く橋渡しできるスキームが構築できれば、手を挙げてくれる企業も増えてくると期待している。

(以上)